

看護ケアの質 ～専門性を高める～

運営委員 赤城 いちよ（国立精神・神経医療研究センター）
小林 久子（慶応義塾大学病院）
原 修治（元松江生協病院）
助言者 益 加代子（愛知県立大学看護学部）

◇ 分科会趣旨／問題提起

24時間365日患者利用者の安全を維持する為、看護職は交代制勤務で働いています。しかしその過酷な状況に耐えきれず、理想と現実の狭間で悩み、やむなく現場を離れていく看護職が後をたたないという現状があります。皆さんの職場はどのようになっていますか？

基本的に日本の看護師数はアメリカの1/5、ドイツの1/2という配置数となっています。現場における過重労働をもたらしている根本的な原因は、絶対的な少なさにあると考えています。

このような現状であるにも関わらず、新たに看護師特定能力認証制度が導入される状況にあり、専門化を養成して看護の質をあげようと考えられています。本来の業務とは何かは今改めて問われてきていると考えています。

誰もの願いは、寿命に限りがあっても、**Only One**の命だからこそこの世に生まれて生きて本当によかった一生を全うしたい、この願いを支え実現するのが看護だと考えています。患者と直接触れあうことの多い看護の現場では、業務の合理化がなされたとしても少ない人員の中では悪循環の繰り返しです。睡眠不足や肉体疲労に体力の限界を感じる中、よいケアをしたい、少しでも満足してもらいたい、患者の笑顔がみたい、等々看護の理想と現実のギャップに悩んでいる現状が多いではありませんか？そんな現状ではありますが、現場目線で日々頑張っている皆さんがいるから看護は成り立っています。日々のケアがたくさんの患者さんや家族を支え、回復につながる力となっています。少ない人員、多忙な業務のなかにあっても専門職として、「看護の専門性」とはについて共に考えていきたいと思っています。

ILOの看護職員条約には「専門職労働の条件」として①高度の知識と技術 ②知識と技術を常に最高水準に維持 ③職業の独自性 ④国民全体に責任を負う仕事 の4点をあげ、看護職は「専門職」と指摘しています。

厳しい環境の中、様々な困難の中での取り組みを報告しあう中で、情報の共有化を図りお互いにこれが本来自分たちが目指す看護なんだと思える場として、分科会を運営していきたいと考えています。

◇ 募集するレポート※レポートの形式にはこだわりません。

参加者の方から「あまりにもつらい毎日の業務の中で、何となく暗い思いをしていましたが、発表を聞かせてもらい看護するすばらしさを今一度学び、もう一度頑張ってみようかと思いましたが」との感想がありました。分科会として結論づけようとは致しません。参加の皆さんの発言の中から共に考えられたらと思います。忙しい中、日々患者さんとの関わりを大切に、ケア出来ている現状が沢山あると思います。形式には拘りません。以下のような内容で積極的にレポート提出をお願いしたいと思います。

- 1 日常生活の援助・技術に関するもの
- 2 健康管理・教育に関するもの
- 3 看護業務に関するもの
- 4 日常の実践で悩んでいること・失敗事例
- 5 その他 ☆ レポートには、病床数、看護職員数、勤務体制、看護方式も記入して下さい。
☆ レポート提出された方は、分科会当日は発表をお願い致します。